

輝け！シン尾花沢中

第180号

令和8年

2月6日

心ゆたかに たくましく 理想をうたう わが学園

与えられるだけでなく、与えられる人に！～2年・立志式～

本日の午後、2年生の立志式が行われました。

立志とは、孔子の論語にある「吾十有五にして学に志す」の言葉や奈良時代の元服の儀式に由来するとされています。数え年15歳を祝うとともに、今後の決意や目標を明確にすることで、大人になる自覚を深める目的で行われました。

生徒は、色紙に書いた座右の銘を掲げ「何を頑張っていくのか」「どんな生き方をしていくのか」「どんな人間を目指していくのか」などを、仲間や保護者の方々の前で堂々と発表しました。



「志」を持つこと、磨くことについて、私が生徒に話したことは次の通りです。

- ・今回発表する座右の銘を拠り所としつつ「**どんな生き方を目指し、どんな人間になりたいか**」を心に刻んでほしい。そして、本日の発表で終わりでなく、その「志」をシンの「志」に磨き上げてほしい。
- ・そのためには、「(他人から) **与えられる【受身】**だけでなく、(他人に) **与えられる【可能】**」人を目指してほしい。自分では何もせずに、仲間や家族、先生方に「もっと～してほしい」と助けを求めてばかりいる人はいないだろうか。もちろん、助け合いは大切だし、SOSを出さなければならないときもある。しかし、自分が元気で余裕やエネルギーのあるときこそ、他人を助けてあげてほしい。
- ・「**他人はなかなか変えられない、自分は変えられる**」。
- ・松下村塾の塾長、吉田松陰は「**志定まれば気栄んなり**」との言葉を残している。「志」が決まれば、やる気に満ちあふれ、人生が充実して幸せなものになる。
- ・シンの「志」を追い求め、その「志」に生きていく尾中生になることを期待している。

また、配付されたパンフレットには、橋本左内の『啓発録』五訓が掲載されていました。

- 1 「去稚心」(稚心を去る) → 幼稚な考え、甘えやわがままな心を捨てること
- 2 「振気」(気を振るう) → 常に油断することなく頑張る気持ちを持つこと
- 3 「立志」(志を立てる) → 志を立て夢や目標を持つこと
- 4 「勉学」(学に勉む) → 学問だけでなく、正しい生き方を学ぶこと
- 5 「拓交友」(交友を拓ぶ) → 互いに切磋琢磨できる良き友を選ぶこと

私自身にとっても学び多き立志式となりました。

次号では生徒の座右の銘を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】